

第五編 交通安全教育



1 交通安全教育実施状況

(1) 交通安全教育実施状況

平成30年交通安全教育実施状況（累計）

	歩行者		自転車		原付・自動二輪車		自動車		その他		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
幼児	289	19,658	2	369	0	0	0	521	13	2,490	304	23,038
小学生	152	13,894	344	31,690	0	0	0	250	19	1,859	515	47,693
中学生	2	216	98	16,756	0	0	0	22	0	66	100	17,060
高校生	6	697	82	40,065	45	1,140	3	15	2	761	138	42,678
大学生等	2	480	9	2,117	1	10	14	1,862	3	755	29	5,224
一般	68	6,713	55	4,247	12	454	920	53,106	82	6,054	1,137	70,574
高齢者	417	17,567	13	845	1	50	206	8,051	47	3,110	684	29,623
合計	936	59,225	603	96,089	59	1,654	1,143	63,827	166	15,095	2,907	235,890

うち参加・体験・実践型教育実施状況

	歩行者		自転車		原付・自動二輪車		自動車		その他		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
幼児	92	5,638	0	101	0	0	0	40	3	558	95	6,337
小学生	44	4,905	158	12,980	0	0	0	10	4	462	206	18,357
中学生	0	1	32	6,739	0	0	0	10	0	0	32	6,750
高校生	2	238	8	4,066	31	287	2	7	0	0	43	4,598
大学生等	0	0	1	40	1	10	1	120	0	0	3	170
一般	10	1,190	11	881	1	39	60	1,555	9	720	91	4,385
高齢者	89	2,984	5	329	1	50	35	931	4	93	134	4,387
合計	237	14,956	215	25,136	34	386	98	2,673	20	1,833	604	44,984

(2) 高齢者家庭訪問指導の実施状況

運転免許を持たない高齢者や老人クラブ等の組織に加入していない高齢者は、交通安全教育を受ける機会が少なく、交通安全に関する知識や意識が希薄となっていると思われるため、家庭訪問を通じた交通安全一対面アドバイスをを行い、高齢者の交通安全意識の高揚を図った。

- ・世帯数 93,975世帯
- ・人数 127,685人

(3) 運転適性検査車の活動状況

運転適性検査車「かがやき号」を積極的に活用し、高齢者や事業所を中心とした交通安全教育を実施した。

- ・回数 17回
- ・人数 329人

(4) 交通安全教育支援班の活動状況

各署の派遣要請に基づき、交通安全教育支援班を派遣し、幼児、児童及び高齢者の交通安全教育を実施した。

- ・回数 74回
- ・人数 10,292人

(5) マスコミを通じた広報の実施状況

区分	マスコミ				新潟日報 新聞
	B S N		ラジオ		
放送時刻等	月曜～木曜 9:30ころ	金曜 9:30ころ	月曜～木曜 17:15ころ	金曜 17:15ころ	通年 月曜～土曜 (朝刊)
番組名	近藤丈晴の独占 ごきげんアワー (交通安全 コーナー)	高橋なんぐの 金曜天国 (交通安全 コーナー)	ゆうなび ラジオ (拝啓運転者 の皆さん)	中田エミリー のとりあえず 生で (拝啓運転者 の皆さん)	
放送(掲載) 内 容	前日の重大事故 最近の交通事故の特徴等		当日の重大事故 最近の交通事故の特徴等		前日までの 交通事故 発生状況

2 交通安全運動等実施状況

(1) 交通安全運動及び特別対策等一覧

ア 各季交通安全運動

期 間	運動名等
4月	春の全国交通安全運動（4月6日～4月15日：10日間） スローガン：春風に 一緒にのせよう ゆとりとマナー 運動の重点 ・子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止 ・自転車の安全利用の推進 ・全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底 ・飲酒運転の根絶 ・横断歩行者の保護（新潟県重点）
7月	夏の交通事故防止運動（7月22日～7月31日：10日間） スローガン：暑い夏 心はクールに 安全運転 運動の重点 ・飲酒運転の根絶 ・疲労運転の防止 ・横断歩行者の保護
9月	秋の全国交通安全運動（9月21日～9月30日：10日間） スローガン：秋の道 早い夕暮れ 早めのライト 運動の重点 ・子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止 ・夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止 ・全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底 ・飲酒運転の根絶 ・横断歩行者の保護（新潟県重点）
12月	冬の交通事故防止運動（12月11日～12月20日：10日間） スローガン：冬の道 ゆとりとマナーで 減らす事故 運動の重点 ・飲酒運転の根絶 ・横断歩行者の保護 ・冬道の安全走行

イ 特別対策

期 間	運動名等
3月	シートベルト・チャイルドシート着用強調月間（3月1日～3月31日） スローガン ぼく安心 チャイルドシートに 抱かれてる 実施事項 ・広報啓発活動の推進 ・妊婦へのチャイルドシート取付け講習
5月	自転車安全月間（5月1日～5月31日） 実施事項 ・あらゆる機会と各種媒体を活用した交通ルールの周知 ・街頭における指導啓発活動
9月～12月	安全運転・チャレンジ100（9月23日～12月31日） 参加チーム・参加人数 8,319チーム・41,595人 達成チーム・達成人数 7,570チーム（達成率91.0%）・37,850人
同上	いきいきクラブ・チャレンジ100（同上） 参加チーム・参加人数 4,281チーム・21,405人 達成チーム・達成人数 4,263チーム（達成率99.6%）・21,315人
10月	高齢者交通事故防止運動（10月1日～10月31日）

	重点 ・早めのライト点灯とこまめな切替え ・道路横断時の安全確認と夜光反射材の積極的な活用 ・高齢ドライバーの安全運転
10月～11月	安全運転実践運動（10月1日～11月30日） 重点 ・横断歩行者の保護 ・子どもと高齢者の交通事故防止 ・夕暮れ時と夜間の交通事故防止 ・シートベルトとチャイルドシートの着用の徹底 ・飲酒運転の根絶

(2) 「平成30年中における交通警察の運営重点」に基づく交通事故防止対策

ア 目的

本県では、交通事故による死者数を「70人以下にする」ことを目標に、「総合的な交通事故防止対策の推進」、「適正かつ緻密な交通事故事件捜査等の推進」、「安全で快適な交通環境の整備」、「県民の期待と信頼に応える交通警察の確立」の4つを重点に掲げ取り組んだ。

イ 「第10次新潟県交通安全計画」の重点施策に係る各種対策

- (ア) 高齢者の交通事故防止対策
- (イ) 歩行者及び自転車の安全確保対策
- (ウ) シートベルトとチャイルドシートの着用の徹底対策
- (エ) 飲酒運転の根絶対策
- (オ) 交通死亡事故抑止緊急対策

・ 交通死亡事故シャットアウト緊急対策

区 分		平成30年	平成29年	増 減 数
署 指 定	実施所属	14	12	+2
	実施回数	19	14	+5
県下一斉	実施回数	2	2	±0

※ 交通死亡事故多発警報発令時や1か月以内に連続して交通死亡事故が発生した場合に、交通死亡事故の続発防止を目的として実施する。

・ 緊急シルバーゾーン対策

区 分		平成30年	平成29年	増 減 数
	実施所属	21	20	+1
	実施回数	39	30	+9

※ 歩行中又は自転車乗用中の高齢者が被害者となった交通死亡事故が発生した場合に、同種交通死亡事故の再発防止を目的として実施する。

3 安全運転大会等実施状況

交通安全子供自転車新潟県大会の開催

(1) 日時

平成30年6月23日 午前9時30分から午後3時までの間

(2) 場所

新潟市黒埼地区総合体育館

(3) 参加チーム・参加人数

2校4チーム 28人（オープン参加・控え選手を含む。）

4 その他の交通安全対策等

(1) 地域交通安全活動推進委員

ア 委嘱期間

平成29年4月1日から平成31年3月31日までの2年間

- イ 委嘱人数
308人（平成29年4月1日現在）
- ウ 地域交通安全活動推進委員の主な活動事例
 - ・ 各季運動期間中の街頭における広報啓発活動
 - ・ 交通安全教室での各種教育活動
 - ・ 関係機関・団体と連携した高齢者世帯訪問指導
- (2) 交通安全教育講習の実施
 - ア 期間
平成30年6月18日から6月22日までの5日間
 - イ 参加者
19所属 20人（男性12人、女性8人）
 - ウ 教養項目
 - ・ 交通安全教育の基本と知識に係る教養
 - ・ 交通安全教育用機材を活用した参加・体験型教育に係る実技教養
 - ・ 自転車指導に係る実技教養
- (3) 「シルバー助け隊」の運用
 - ア 期間
平成23年7月14日から運用開始
 - イ 協力団体（平成30年1月末現在）

・ 新潟県トラック協会	822社
・ 新潟県ハイヤー・タクシー協会	112社
・ 赤帽新潟県軽自動車運送協同組合	108名
・ 自動車運転代行業各社	215社
・ N I C新潟日報販売店会	200店
・ 新潟県警備業協会	118社
・ 新潟県交通安全協会	31団体
・ 新潟県安全運転管理者協会	7,982社
計	31団体9,249社200店108名
- (4) 「シルバー輝かせ隊」の運用
 - ア 期間
平成23年9月6日から運用開始
 - イ 協力団体（平成30年8月現在）
 - ・ 一般財団法人 新潟県民生委員児童委員協議会
 - ・ 社会福祉法人 新潟市民生委員児童委員協議会連合会 など

計 33団体4,879人
- (5) スタントマンを活用した自転車交通安全教室の開催
開催日及び実施校
 - ・ 平成30年5月7日 魚沼市立広神中学校
 - ・ 平成30年5月17日 新発田市立東中学校、東小学校
 - ・ 平成30年5月24日 県立柏崎総合高等学校
 - ・ 平成30年6月20日 新潟市立小須戸中学校、小須戸小学校
 - ・ 平成30年7月10日 見附市立見附中学校
 - ・ 平成30年7月17日 県立阿賀黎明中学校・高等学校
阿賀町立阿賀津川中学校
 - ・ 平成30年9月5日 県立三条東高等学校

計 7箇所 2,770人受講
- (6) 大相撲豊山関協力による交通死亡事故抑止のための広報啓発活動
 - ア 内容

横断歩行者保護対策を推進するため、大相撲豊山関の協力を得てポスター・チラシを作成、県内各地に展開する大手ドラッグストアチェーンの協力の下、店頭をはじめ、路線バス車内等に啓発用ポスターの掲示を依頼するなど、各種団体と協働した活動を実施した。

イ 主な配布先

薬局、路線バス会社等

(7) 飲酒運転根絶に向けた啓発ポスターの掲出

飲酒運転による人身交通事故の発生が後を絶たないため、アイドルグループ「Negicco (ねぎっこ)」の協力を得て、飲酒運転根絶ポスターを作成し、警察署や交番などの警察施設を中心にポスターの掲載を実施した。

(8) 新潟大学と連携した交通事故抑止対策の推進

ア 概要

近年、本県の交通死亡事故において、高齢者の死者の割合が過半数を占め、約6割が歩行中に被害に遭い、そのうち7割以上が道路横断中であることから、高齢者を中心とした道路横断時の被害防止が喫緊の課題となり、県警と大学が連携した交通事故抑止対策を実施した結果、警察庁長官賞を受賞した。

イ 施策内容

(ア) 交通安全サポーターの任命

新潟大学で交通安全に強い関心を持つ学生を「交通安全サポーター」(以下「NUTS」という)に任命し、警察と大学が連携した交通事故抑止対策を推進している。

※NUTS=Niigata University Traffic safety Supportersの略

平成30年11月現在 28人

(イ) 運動機能に着目した高齢者の交通事故抑止プロジェクト

高齢者の運動機能に着目した交通安全プログラムの構築と普及を目指す「新潟プロジェクト」では、高齢者を対象に参加・体験型の交通安全教室を展開し

- ・NUTSによる「歩行に必要な筋力や運動機能の測定評価」
- ・警察による「歩行環境シミュレーターを活用した安全な道路横断の体験指導」

などを併せて実施した。

(ウ) 新潟プロジェクトの県下全域への展開

従来のプロジェクトでは、同じ対象者に複数回実施してデータを収集していたため、地域や対象者が限られていたが、内容を一部改善することで、より多くの地域と対象者への実施が可能となり、各署の高齢者事故発生状況などを考慮して

県内12箇所、249人

に実施をした。

(エ) その他活動

ドライバーに対し早めのライト点灯を呼びかける「おもしろライト運動」を実施するなど、これまで広がりが難しかった若い世代を中心とした交通安全活動の輪が広がっている。